

ダイズ（黒）

畑のお肉 癌などの抑制に良い
播種の時期と開花時の水切れに注意

特徴：原産地は中国、古くから漢方薬。日本での歴史は不詳。江戸初期に兵庫県丹波地方の特産として栽培されていた記録がある。ブラックパワーの一つ「アントシアニン」を含み癌予防効果の発表から世界中が注目。



種

栽培時期

	6	7	8	9	10	11	12
植付						枝豆	種実
収穫	←→	←→			←→	←→	←→
	播種	植付			収	穫	



育苗

品種・・・丹波黒、新丹波黒
香川黒1号

育苗：主体は直蒔き、天候が悪い時や野鳥対策には苗床やポット鉢で育苗をする。

直播は1条に株間40～45cmに2～3粒ずつ播種。床土は無病の水田の土や購入育苗土を利用する。

播種時期6月20～7月4日、早蒔きは結実が少ない。

畝作り：堆肥2kg/m²や苦土石灰120g/m²を入れて2週間程度置き、畝幅130～140cmにする。

植付：本葉2～3枚の7月中頃一条植え、株間40～45cmに植え付ける。

中耕除草・土寄せ：本葉2枚の頃中耕除草をし、倒伏防止のため1回目の土寄せをする。2回目は本葉4～5枚の頃中耕除草し、PK肥料を20～30g/m²施し第1本葉節まで土寄せをする。

摘心：本葉5～6枚の頃摘心をしてわき芽の伸長を促す。

開花期に茂り過ぎて花に日が当たらない場合は再度、摘芯、摘葉する。



摘芯時期

防除：9月になればヨトウ虫が食害するので防除をする。

収穫：11月になれば莢^{きや}に実が入り枝豆としても食べられる。

12月中旬莢が茶色になったら株基から刈り取って、架け干しを10日程度して実が固くなったら脱穀をする。(板等に打ち付ける)



陽光が当たるような状態にする

九条ネギ

焼いても煮ても美味しく青い葉もすべて食べられる
肥料切れに注意



充分分けたネギ

特徴： 種でなく「イモ」から育てる九条ネギ(50年間続けている) すべての生物は自分の子孫を残す本能が有る。

ネギも花を咲かせて種を残そうと、4月10日頃に花蕾を出す。それを刈り取る、又10日後に蕾をだす、私はネギに「ネギよ、お前に種は取らさないぞ、イモで残せ」と言って、緑葉と蕾を刈り、掘り起こし、土を振るい2~3本に分割して天日に干す。

栽培： 6月1日頃には、乾いた茎の殻を剥くと、青い芽を出したイモが出来ている。「早く植えてくれ」とイモから白い根がふつふつと出ようとしている。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
植付等				頭刈取		植付						
収穫	←								→	← 収穫 →		

畝作り： 堆肥、石灰、園芸887化成、を施肥深く耕して畝巾1.1mにする。
追肥主体で施肥する。2条植えの時の条間(中はま)は広くする。

植え付け・追肥： トラクターで耕起して、畝立てせずに1.1m幅にイモを2条植えする。
中はま40cm、株間10cmに植える、ネギの生育に合わせて土寄せを毎月する、10月頃には畝が出来上がって、ネギも白い所が20cm以上出来る。
7月中頃から間を抜いて食べられる、そして株間20cmになる様にする。

管理、追肥： 中はまには、追肥は多く堆肥も多く施肥すると、やわらかいネギになる。硬いのは追肥不足。中はまを広くして追肥を施肥し易くする。月1回程度土寄せし、条間に園芸887化成を施肥する。

収穫： 1か月後の7月から、翌年4月中頃迄、毎月追肥を続けていれば、軟らかい良いネギが採れる。

障害、病害： ネギの病気を防ぐ為、トップジンM2000倍液を散布する。



5月28日頃、植付前



6月4日頃



5月30日頃、植付直後の発根

スイカ

作業しやすい畝作りと、水はけがコツ
夏の王様をたっぷり食べよう！

特徴 利尿作用によりむくみ、腎臓、高血圧などに効果があり、
また体を冷やすことから日射病、二日酔いなどによい。

- ・ 季節の状況によってでき方が変わる。 夏の日照りが
多い高温の年ほど良くできる。雨天が多く低温の年は、
実が付きにくく病虫害も発生しやすい。
- ・ 連作は嫌うが、接ぎ木では影響しない。 土壌は砂質を好
み粘土質や湿りの多い土壌は嫌う
- ・ 根は地表近く浅く広く張る



紅まくら

栽培

	3月	4月	5月	6月	7月	8月
種	●——	——			○——	——
購入苗		△——	——		○——	——

●播種 △植付 ○収穫

畝作り 堆肥、腐葉土、苦土石灰を入れ鞍つきの畝を作る

砂質でない場合はスイカの根の張り方から「カマボコ型」が良い。また水分管理の
簡便さからマルチをほぼ全面に張る

種まき 直接畝に蒔く・・・蒔くと同時にキャップを用い保湿
保温を行うこと、またはポットで育てて移植する。

購入苗 本葉4～5枚のものを選ぶ、鞍つきにやや浅植え、行燈
ホットキャップ、トンネルなどを行う。(2～3週間)



苗

整枝・受粉 親つるは5～6節で摘心、子つるを3～4本伸ばさ
せる。子つるの脇芽(孫つる)欠きは、初めの結球まで
実施するが後はしない、人工授粉は、雨天や曇天時、
虫類が飛びにくいとき実施するのが効果的である



つるの伸び始め

敷き藁 可能なら麦わらをつるが伸びるに従って…全面に敷く。つるの伸びる方向は竹串などで案内する…四方に延ばす・渦巻きにする・子つるを揃えて延ばすなどがある。

追肥 実がピンポン大になったら、株から 70cm 位の離れた所へ米ぬか、油粕、魚粉などを一握りつつ施す。

予めマルチの下に待ち肥として入れておくのも一法。

実 最初は一株に 3~5 個ていど取るように計らう。
途中玉返しによって色むらを無くす。
また、転がらないように円座・スチロール製の皿等を利用。玉返しをしないと、強い日差しで表面が日焼けをして痛む。



大玉とトレイ

病気 雨の多いときは病が発生しやすい。
特に、つる枯れ病は一つのつるから株全体に蔓延し収穫ができなくなる。
小苗時と入梅前に予防をしておく…ベンレート水和剤、ダコニール 1000
つる割れ病もよく発生する、トップジンペーストを使う。

収穫 ピンポン大から 42 日程度(授粉から 50 日くらい)…日付札を付ける。
日付札がつけられなかった場合

- 1) 果柄の付け根の巻きひげが枯れる
- 2) たいた時の音が高音から → 低音になる
- 3) 光があまり当たらなかった部分が黄色になる
- 4) 緑の線がクッキリしてくる???



小玉 吊るし

保存 風通しのある日陰に置くこと(高温無風は痛みが早い)
小玉の賞味期限は環境にもよるが・・・5 日程度
普通玉の場合は・・・8~10 日程度
黒皮玉の場合は・・・最大 30 日程度

注意 小玉は大きさが 2Kg 程度で冷蔵保存しやすく家族数によっては扱いやすい。
生育途中で割れやすいのが欠点。
よく観察をして、日数のみに頼らず表皮に小さなひび割れが見えたら一層注意をして割れてしまう前に収穫する。普通 30 日程度の日数がほしいが、25 日程度で十分糖度が高い場合もある。雨量が多いときなどは熟していないのに割れる場合がある。

ニンジン

ビタミンの王様、いろどり栄養豊富な野菜
 深耕、高畝、元肥は無肥料 追肥で育てる

特徴： 95%真直ぐな人参作り（発芽率95%以上）
 畑を深く耕して置けば、長い物が穫れる。
 前作の肥料が残って居ればそこで、伸長が止ま
 ったり又になる。



栽培： 元肥は無肥料で畑を深く耕して畝巾 1.1mに畝立てする。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
植付等							種播						
収穫	→									←			収穫

播種： 8月5日、浅く樋を2すじ付ける、水かける、種子を花崗土に混ぜて増量して蒔きやすくして蒔く。その上に川砂を2ミリかけて、その上にマルチングをして、その上に乾いた草を厚さ10cm以上かけて、8月の高温と乾燥を防ぐ、5日間で必ず生える。発芽したら、夕方に草マルチを取り、寒冷紗で2重に覆い、真夏の日差しから守る。5日後に1重、10日後に除ける。

「注」高温時に、絶対に水を種には掛けないのがコツ。高温時に水を掛けると、種は全部腐って発芽しない。人参の種も95%以上は発芽する。

管理、追肥： 1ヶ月後に中はまに追肥を多く施す、育って来たらはぎを抜いて5cm間隔にする。絶対に前作の施肥後4ヶ月以上経過、肥料が完全に土になる事、元肥は何もやらない事が真すぐな収穫のコツ。

収穫： 10月下旬頃から食べられる、大きい物から採れば小さい物も大きくなる。

ブロッコリー

抗酸化作用の高いビタミン豊富なすぐれた野菜
アブラナ科の連作障害有り、ホウ素入り肥料で育てる

特徴 花を食用とするキャベツの一種、品種改良されブロッコリーとカリフラワーが出来た。緑色の花蕾と茎を食用とする。ビタミンB・C、カロテン、鉄分を豊富に含む。
スルフォラファンを多く含み癌予防、ピロリ菌抑制効果等があるとされている。



ブロッコリーの花蕾

栽培時期

栽培スケジュール	【秋採り】播種7月中旬 植付け8月下旬 収穫10月中旬～11月下旬 【冬採り】播種8月上旬 植付け9月初旬 収穫11月上旬～12月下旬 【晩冬採り】播種8月中旬 植付け9月中旬 収穫2月中旬～3月 【初夏採り】播種2月上旬 植付け3月中旬 収穫5月中旬
品種	【秋採り】ピクセル 【冬採り】晩緑・ハイツ 【晩冬採り】晩緑 【初夏採り】ピクセル

ポイント

連作障害：長年白菜やキャベツなどアブラナ科植物を栽培すると、黒腐病や軟腐病、根こぶ病が出る。

根は湿害に弱く、根腐れを起こし枯れやすいので、畑の排水対策を行っておく。

ホウ素入りの肥料を基肥に使用する。

未熟堆肥や鶏糞は黒腐病を発病させ易いので避ける。

育苗、栽培管理

播種：ポットまたはセル蒔きとする。

種子は1つのポットに2～3粒（1セルに1粒）の種を蒔き屋内の涼しい所で発芽させた後屋外で管理する。



カリフラワーの苗

間引き：本葉が出始めた頃に2本に、本葉2枚の頃に1本に間引きする。

畝作り：畑は畝幅は1.2mの2条千鳥か 畝幅60～75cmの1条植えにする。
植え付け前に畝に石灰資材と堆肥を混ぜておく。

施肥元肥：有機質等の肥料と石灰質肥料を施用する。

施肥例（1㎡当たり）

種類	元肥	追肥1	追肥2
苦土石灰	150g		
堆肥	2000g		
菜種油粕	100g	50g	50g
高度化成肥料 (14-10-13)	100g	100g	50g

植え付け：本葉5～6枚の頃条間45cm、株間45cmで本田に植え付ける。

追肥：定植後1週間後1回目の追肥、花蕾が100円玉位になった頃2回目の追肥
(速効性の肥料) 例：千代田化成等

収穫：頂花蕾の直径が10～15cm程度が収穫の適期。秋、冬採りは大きめ、晩冬、初夏はやや小さめになる。頂花蕾を収穫後も花蕾はやや小さいが2次頂花、3次頂花が出る。

2回目以降の花蕾は摘蕾して一つにすればまた大きい花蕾ができる。



ブロッコリーのサラダ

小豆

摘心2回で1株1合採り



特徴： 早く播けば草丈が伸びて倒れ、実が熟れるのが下部と上部が不揃いになる。遅く播けば多収出来ない。

栽培： リン酸を多く施肥する。リン酸成分は樹を固く育て実を良く充実させる。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
植付等							種播	△□	植付			
収穫										10/25		

←
収穫

育苗： 7月15日にポットに培土と花崗土を1:1に混合したものを、9分目まで入れて水を掛けて種子を3粒蒔き(埋める)水をかける。芽が出て来たら良い苗を2本残す、無肥料で種豆の栄養のみで、良い苗が出来る。

畝作り： 畝巾1mの畝にする。

植え付け： 7月30日、50cm間隔に植える。2本植えにするのは、ヨトウ虫等の虫害を考慮してのこと。苗をポットに立てるのは樹勢を付け、活着をさせるためである。

管理・追肥：

普通の畑なら追肥は不用、毎朝、畑を見回り虫の害を防ぐ、葉に白い点が出来たら裏側に虫が無数にわいて居る、葉を取り潰せば虫害を防げる。樹が成長すれば土寄せをし、倒伏を防止する。本葉5-6枚時と樹高40cmの時、2回の芯止めをする。花が咲き始めたら、水を溝に走らす。葉をしおれさせては、実は受精しないから水が大事。小さい莢が見え始めたら、殺虫剤で予防。土寄せをする。

収穫： 樹高が 45cm なら倒伏せず、莢も上下共に熟れる、株を抜いて家で陰干しすれば良い。

障害・注意点： 花が咲く頃と莢が出来る頃に、虫の被害が出る、莢が出来た頃、
殺虫剤で予防すれば虫食いの実は防げる。1株1合取りは楽しい。

1株—162g



収穫前



乾燥

ナス

幅広畝、浅植えて1株700個採り



特徴： 根を良く張らす為に、畝巾は広く、樹との間隔を空ける。

栽培： 接ぎ木苗を買う、連作に強い。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
			□ 植付		収穫			追肥			

←—————→

畝造り： 園芸 877 化成、堆肥、石灰を施肥して深く耕す、畝巾—150cm 溝幅30cm 畝高30cm のカマボコ型にする。水掃けと作業をし易くするため溝を広く取る。マルチは水分を保つのと、植え付け時の保温。

植え付け： マルチに穴を空けて高い所に浅植えする。ビニールトンネルを掛け、苗の真上に25cmの換気と水やりの穴をあける。

管理、追肥： 葉に虫がつくとジョーロまたは噴霧器で殺虫剤をかけて駆除する。

収穫が始まったら7日に1度に水を溝に走らせ、園芸 877 化成を1株200g施肥する。水は1時間以内に無くなる程度。

7月8月9月の高温時には根が耐えられる様に畝も溝も野草を敷きつめる、株元は何時も乾燥している事。根は水を求めて溝に伸びる。

収穫： 6月12日頃から、つぎつぎに花が咲き、実が採れる。早めに収穫する。収穫時には伸長しすぎた枝も同時に除く。空間を作ることで、真夏も連続して採れる。1株当たり11月になると株元は経6-7センチ、樹高1.8m樹巾2.0mになり700個以上収穫。



←トンネル設置



倒伏防止の支柱→

キュウリ

葉を摘み、連続成育で1株350個採り

特徴： 葉が有れば、新芽が出にくい。
葉を病気が来ない内に摘む。そうすれば
4月上旬に植えて5月中旬から11月まで、
収穫出来る



摘葉後

栽培：

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
植付				□ 植付								
収穫					← 収穫		(葉摘み、追肥で多収)					→

畝作り： 堆肥、園芸887化成、石灰、を施肥、深耕して、畝巾 1.8m、溝幅 0.3mの、
高畝にする、溝は作業しやすいように広くする。

植え付け： 連作できる接木苗を購入する。

マルチに60センチ間隔に穴をあけて、苗を植える。決して深植えしない浅植、ビ
ニールトンネルで覆い苗の真上に経25センチの穴を開ける。

5月15日頃から実が成りだすのでトンネルを撤去しネットを張る。

管理・追肥： 下枝の脇芽を2本残して3本仕立てにする、その他の脇芽は1葉を残し
2葉目の間で切る。葉の付け根の実を収穫する前日に親葉は摘み取る事。直ぐ
に孫蔓が出る、根も出て樹が若がえる、葉に病気のこない内に摘む、樹の高さが根
の長さ。

水、肥料は溝に施す。夏の高温障害を防ぐ為に、マルチ上に草を10センチ厚さに
敷くと良い。収穫は早めに行う事。樹を弱らせず、葉を早く摘むと、新芽が出易く
花芽が付き、良い実が多く採れる。追肥は毎週、園芸887化成を施肥する。

障害、注意点： きゅうりの葉が黄色くなる、これは樹が老化して(芽を出す機会を過ぎる)、
もう新芽は出ない。早く葉を摘み、樹を若がえらせ、新芽、新根を出させて樹を10
月迄もたすと1本当たり350本採れる。

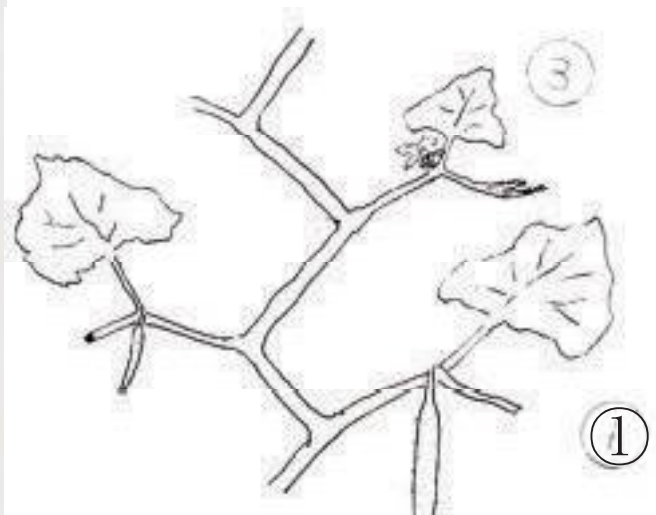
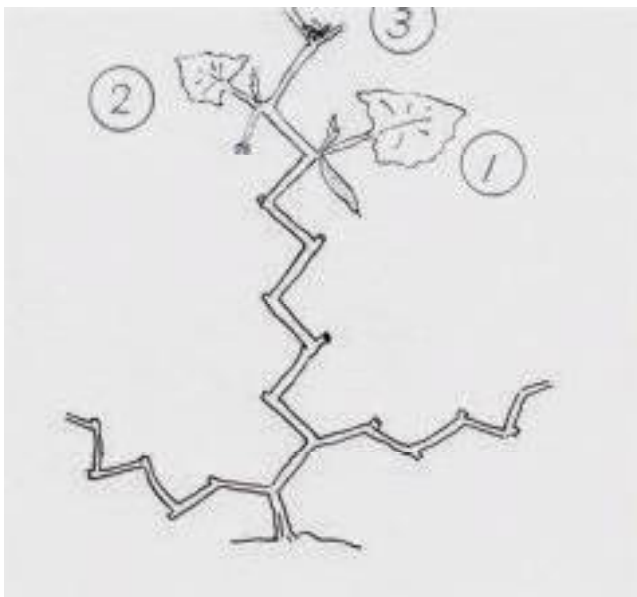
きゅうりは毎日の点検が欠かせない。



トンネル



トンネル撤去直後



三本仕立様

下部5節は3本共に収穫しない。

収穫方法①を例として

㊦左図①の実を収穫と同時に葉を落とす

㊦脇芽が成長して右図①となる。

㊦一節残して切る。

㊦収穫の前日、葉を落とし翌日収穫する

㊦ここから新しい芽が伸びる

ゴボウ

食物繊維の多い整腸に欠かせない野菜
元肥なし、深耕と追肥で育成

特徴： 95%まっすぐな牛蒡
牛蒡の根は下に養分を求めて真直ぐに伸びて行く性格、途中で肥料分が有れば、又になりやすい。



直根の様子

栽培： 前作に施肥した日から6カ月以上過ぎて居る事。肥料が残っていないことが秘訣。
本畑に直播き。播種は3月25日に、浅く樋を切りたねを蒔く。土を薄くかけて、乾燥を防ぐために切り草や堆肥をふる。もう一つの方法として移植もある。3月下旬に細いごぼうを掘り採り、20cmに先を切り捨て、畑に深さ5cmに斜めに植える。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
播种植付			▲ 播種 3/25									
収穫	←	←						←	←	←	←	←

畝作り： 肥料も堆肥もやらない、無肥料にて60cm位に深く耕す。元肥施用による土作りはしない、すれば良い物は採れない。

管理・追肥： 4月18日頃に芽生えて来る、播種後1カ月で少し土寄せをして低くなった中はまに追肥園芸887化成を多目に施肥、上に切草や堆肥を多く置く。

収穫： 7月下旬から掘り穫れる。土が細い土質ならきめの細い綺麗な物が採れるが、砂が荒いと、きめの荒い物になる。

障害・注意点： 収穫時には葉は畑に残さない。来年の牛蒡に、黒い点が入り病気になる。
9月以降の追肥は不要。



発芽直後



発育中の様子

インゲン

作りやすく高たんぱく質な野菜
葉摘みで再生、長期収穫



(実入) インゲン

特徴： 中南米原産。16世紀末にヨーロッパを經由して中国に伝わり 17世紀、明の僧侶隠元禪師が日本に持ち込んだとされている。低脂肪、高タンパクの非常に優れた食品である。若いさやを食べる「サヤインゲン」と成熟した種実用種がある。

成熟した種実を粉にして食べると毒性があり嘔吐や下痢をするので生では食用にしないこと。インゲンはフジマメ、三度豆とも呼ぶ。

栽培時期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
播種育苗			育苗	←→	←	←	←	←	←	←		
直蒔露地				←	←	←	←	←	←	←		

育苗：種類：つるなし、つるありが有る

品種 つるあり：ケンタッキーワンダー、平莢五寸、モロッコ

つるなし：濃緑すじなし、江戸川、抑制裁培：セレモニー

植付： 本葉2～3枚で株間30～35cmに植え付ける。

また、畝幅100～120cmで2条植えを行う。

つる有りは2mくらいの支柱をする。



摘葉後

施肥：元肥有機質肥料と酸性土壌に弱いので石灰質肥料を施用する。

追肥…着莢した頃1㎡当たり887を30～50gを株間に施用する。(3週間に1度位)



ウズラ



正金時

インゲンの品種別特徴

	品種名	筋の有無	莢の形状	莢の長さ	莢食	実食	播種時期	収穫時期	特徴
つるなし	正金時	無	丸平	14～15cm	○	○	4中～8中	6中～10末	実が甘い
	うずら豆	無	丸平	12～14cm	○	○	4中～8中	6中～10末	
	プロバインダー	無	丸平	14～15cm	○		4中～8末	6中～10末	極早生
	フラットグリーン	無	平	約18cm	○		4下～9上	6中～11上	莢軟
	セレモニー	無	丸	約12cm	○		4上～8上	6中～10末	極早生(抑制)
	さつきみどり	無	丸	約14cm	○				
	耐病モロッコ	無	平	約14cm	○	○			
	さやっこ	無	丸	10～11cm	○				
つる有り	うずら豆	無	丸平	12～14cm	○	○	4中～8中	6中～10末	
	ケンタッキーワンダー	無	丸平	21～23cm	○		4下～8上	6下～10中	
	ケンタッキー101	無	丸平	21～23cm	○		4下～8上	6下～10中	多収穫
	モロッコ	無	平	約14cm	○	○			肉厚、莢軟
	ブロードウェイ	無	平	約25cm	○		4下～8上	6下～10中	極早生、豊産性
	揚子江	無	平	約23cm	○	○	4上～7末	6中～11上	莢軟、豊産性、抑制
	ロングラン	無	丸	15～16cm	○		4中～8中	6中～11上	早生種、抑制
	平莢五寸	有り	平	18～21cm	○	○	5上～8末	6下～10上	
	<small>サヤギミ</small> 莢君	無	丸平	約12cm	○		4上～5上	5下～7末	
	スラットワンダー	無	丸	約12cm	○				
	ハイブシ南星	無	平	12～13cm	○		4下～8上	6中～10中	
	ササゲ赤種三尺大長	無	丸	60cm	○		4下～7下	7中～10末	
	白花豆	無	丸平	12～13cm	○	○	7下～8末	6中～11末	

※赤字は講座での推奨品種

ゴーヤ（ニガウリ）

夏バテ防止野菜
摘心で収穫倍増



ゴーヤの着果

特徴 原産地は熱帯アジア。日本では南西諸島、南九州で栽培されていた。

2001～（2004）年のNHK放送「ちゅらさん」により沖縄の文化・料理が放映されゴーヤチャンプルーが全国的に普及した。

沖縄では「ゴーヤ」が一般的である。
食物繊維やミネラルが豊富。



白いゴーヤ

栽培時期

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地				← 播 種 →			← 収 穫 →					
				植付	■							

品種：島さんご、太れいし、白れいし



ゴーヤの種

育苗、栽培管理

播種もできるが苗購入が簡単。

種子は発芽し難いので12～24時間、水に浸しておく。

播種後覆土を厚くすると発芽が悪いので2～3cmと浅くする。



ゴーヤ雌雄の花

本葉8枚で摘心し、子蔓、孫蔓を伸ばし、子蔓、孫蔓に着果させる。

（着果が多すぎると小玉、甘み薄い）

株元の蔓はできるだけ引き上げる。引き上げられない場合は切り取り見通しを良くする。
マムシが潜むため。

畝作り 畝幅は1.2m の1条植え、株間は1mにする。

支柱にネットを張って蔓を登らせる。子・孫蔓が落ちてくるので時々上に誘引する。
日よけ用にも利用できる。

斜め仕立てなら果実が下にぶら下がり管理しやすい。



日よけをかねる

施肥元肥：有機質等の肥料と石灰質肥料を施用する。

施肥例（1 m²あたり）

種類	元肥	追肥 1	追肥 2
苦土石灰	150 g		
堆肥	2000 g		
菜種油粕	100 g	50 g	50 g
高度化成肥料 (14-10-13)	100 g	100 g	50 g

棚仕立てに果実
がぶら下がる



裏側から

収穫：果実が15cm以上になれば収穫できる。

黄色くなれば過熟。



ゴーヤかりんとう



ゴーヤ佃煮



ゴーヤサラダ

カボチャ

長期保存可。疲労回復野菜として古くから親しまれている
畝幅広く摘心肝要

特徴 西洋カボチャ(南米原産)はウリ類の中でも比較的低温性であり、日本カボチャよりさらに低温性で高温になるとデンプンの蓄積が悪くなるなど生育が著しく阻害される。土壌に対する適応性は広く荒れ地や砂質土でも栽培は可能である。



芳香南瓜

栽培時期、品種：えびす、芳香南瓜、坊ちゃん南瓜、黒皮甘栗南瓜

	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>10</u>	<u>11</u> <u>12</u>
トンネル	△		□ トンネル			←→					
露地		△	△	□			←→				
抑制 (直播)							△				←→

△播種 □植付 ←→ 収穫

育苗：ハウスや温床で育苗をする。床土は無病の水田の土や購入育苗土を利用する。



敷き物をする

畝作り：畝幅3～4mで高畝にする。

植付：本葉4～5枚の頃、4月中下旬、株間80～100cm

摘心：親つるの本葉5～6枚の頃摘心をする。子つるの先が立ち上がって草勢が非常に強く、着果が無い時は子つるの先を軽く摘心する。子つるは4方に誘引する。

敷きわら：摘心後つるが伸び始めた頃、麦わら又は萱をつるの下に敷く。ピン球大になった頃受け台を敷く。

受粉：雨が多く着果が無い時は朝のうちに受粉してやる。

施肥：有機質等の肥料と石灰質肥料を施用し土と混和しておく。

植付の時に株もと 20～30cm のところに化成肥料を施用する。着果して草勢が弱い時は追肥をする。

施肥例（1 m²当たり）

種類	元肥	追肥
苦土石灰	15 g	
堆肥	200 g	
高度化成肥料 (14-10-13)	50 g	10 g



収穫時期のカボチャ

収穫： 着果してピン球玉の大きさになった時、着果日札を付ける、受粉して 45～50 日、ピン球大から 30 日で収穫する。また、表皮に爪が立たなくなったら収穫を考えてもよい。

または、果実の付け根部分の蔓が茶色く割れ目模様が全体的に出来た頃、収穫する。収穫後、高温(30℃以上)に合うとデンプンが糖に変質するため、甘みは増大するがホクホク感は減少する。

冬季にホクホクした食感を味わうためには「抑制」形の栽培を行う。(前頁表中)

サツマイモ

芋は水が育てる。昔も今もみんなのスイーツ

種類 ベニあずま、金時、高系14号、太白、紅いも、紫芋、安納いも

性質 肥料は少なくてよく育つ
 土壌の適応幅は広く、特に砂質土壌に向く
 地温 15 ~ 20℃でよく発根する
 貯蔵が出来、ビタミンB1、C、 繊維を多く含む



各種

栽培

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
普通		中旬				収穫		
改良①	下旬				収穫			
改良②		△←	→	△		○←	収穫	→○

植付

- ① 購入苗、直後から植え付けは可能
 購入後、一度しおれるまで日蔭で置き「しおれさせて」から、切り口を湿し、一日おいて後植え付ける方法や、とりこ等もある。
- ② 水平、ななめ、垂直など植え付け方はいろいろ。
- ③ 切り口(吸水口)は深い方が乾きにくい。
- ④ 株間 30 ~ 35cm程度で一条植え。
- ⑤ 藁わらがあれば長いまま苗を挟むように置き、水をかけ収穫までほとんど放置。



苗

改良① 早期収穫を目的にしたマルチ法

- ア) 高畝にし、植え溝を作った後マルチを張る
- イ) 苗の植え付けは、四月下旬
 (可能な限り4月25日まで)
- ウ) 低温障害を予想し、苗上に狭いマルチ、5月に入り気温上昇で撤去する
- エ) 収穫は8月上旬(鳴門のさぐり堀り)からお盆頃



植付



改良② 多収穫を目的とした、再育苗法

- ア) 苗の購入後、穂取りを目的にした植栽を行う
透明ポリトンネルもよい
- イ) 一か月後に穂(苗)取り 一回目 元 20 → 20 本
- ウ) 次に 20 日後 → 二回目 40 本、さらに 20 日後
→ 三回目 60 本、を取る
20 本の苗から 120 本の苗を取った
- エ) 収穫は、元苗が 9 月中旬、あとは次々とほぼ 11 月中旬まで収穫する



紙マルチ 降雨でも破れない

その他

- ① 芋の成熟はほぼ 110~120 日程度と考えられる
放置すれば大きくなる
- ② 価値ある大きさは 直径 5 cm
長さ 20 cm
- ③ 保存
 - ア) 地下方式
 - イ) 室内保存



成育中

小コンテナに、右上写真のように蔓がついたまま詰める。
早めに使用する場合は蔓なしでもよい。
暗所で風の通らない場所が良い。
室温が最低 10℃をくだらない納屋の
地下室は古来からの貯蔵場所として最適。



左 良 右 過肥大



貯蔵中(家の納戸) 3/19 撮影

山の芋

ねばさが違う。元気の源は山の芋から

- 特徴
- ・粘性(でんぷんの濃さ)は他の芋類の中で最も高い。
 - ・連作はできない。(4年は空けたい)
 - ・土壌は砂質が良く、水が育てると言われるほど水分を欲する。



丸い山の芋

栽培

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11	冬
植付			手	追肥	藁敷	水	水		収穫	保存

- 畝作り
- 畝幅は50～60cm、少し高畝にする。
堆肥、化成を漉き込む、深耕。
産地の土居町では専用肥料を準備している。



植付中

- 植付け
- 2月末までに植え付けを終えたい。
種イモは表皮を必ず残し50～80g程度に切る。
切り口は、消石灰を付着する。
植穴の間隔は30～35cm程度。
表皮を下にして5～7cmの覆土を行い手圧する。
埋め込みの上に堆肥を一握り置く。

- 手作り
- 五月下旬、発芽が始まり蔓が20～30cm頃、手を作る。
先端は折れやすいので要注意。
1.5m程度の竹と細紐で作る。両端に杭打ちしっかり固定。



発芽



発芽

追肥とマルチ

ほとんどの蔓が伸びたら、油粕と化成を蔓の周りに施す。
その後、藁または草などを用いて乾燥防止のマルチ作りを、遅くとも梅雨明けまでに実施。

管理

除草

梅雨明けから十月初めまで、乾燥に注意。土質にもよるが三日に一度の水かけ、または一週間に一度の水入れを行う。

害虫・糞により発見することが多い。



葉が良く茂っている
畝に藁マルチ細ひもで押さえ

収穫

葉、茎が茶色になったら収穫。 湿気の多い畑は要注意。長期置かないこと。
芋は水洗いしても傷まない。



← 収穫近し

保存

一個ずつ新聞紙にくるみ、風の無い場所にコンテナで保存。



500～700 g が最良

サトイモ

郷土料理に欠かせない美味しい野菜
連作障害有り。水切れ注意！



種いも

土作り： 石灰を少しと化成肥料園芸 8 8 7
化成を施肥して深く耕して 1.2mに畝立てする。

栽培：

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
植付				植付								
収穫貯蔵	← 貯蔵			■					← 収穫	掘取、貯蔵		

植え付け： サトイモは連作を非常に嫌う作物。5年間はさけること。毎年ちがう土地で栽培しないと良い物は採れない。

種イモ採り、前年の貯蔵していた芋から芽が出て来る。

4月15日頃に畑に植える、植え方は0.5m間隔に坪を掘り1条植え、種イモは横に植えた方がよい。上に枯れ草を置き霜害を防ぐ、一条植えなら土寄せする時に作業がしやすい、芋の株が大きく良く育ち小芋も大きい物が多く収穫出来る。

5月末頃から葉が出て来る、小芋が入る時期には多く土寄せをする事。

6月10日頃、中耕除草の時に追肥を、「トンプン」など有機質の肥料を施肥する。

9月下旬には土寄せをしっかりとる。小芋が土の上に出て来るから、多く土寄せする。そのために大きく畝を作り、株間を開ける程、芋は大きく育ち収量も多い。

防除： 6月に入ると、虫に葉を喰われる。6～7月に害虫による食害が多くなるので良く見回ること。

害虫は葉の表面に集中する。



発育中

ト マ ト

トマトを制すれば野菜を制す。
甘いトマトと笑顔を家族の元へ。

種類	ミニトマト 中玉 大玉	千果、ミニキャロル、アイコ フルティカ、ルイ 60 桃太郎シリーズ、米寿、サタン 福寿
----	-------------------	--



栽培期 トマトは高温多湿に弱く特に大玉は高温(35℃)になると色づかない欠点がある。また、近年の温暖化を考慮し、平均的な時期から改善を図るのも一方法である。

	播種	植え付け	収穫
平均的	3月中旬	5月上旬	7月～8月
改善 1	(3月上旬)	4月中旬	6月中下旬
改善 2	6月中下旬	7月下旬	9月下～秋



育苗中

① 土と畝

- 1) 日当たりのよい場所、ジャガイモに近くない場所を計画する
- 2) 連作障害あり、3～4年の間隔は取る 接ぎ木苗なら影響はほとんどない
- 3) 酸性土壌に弱い、苦土石灰等で中和、PH 5.5 ～ 6.5 位に調整したい
- 4) 肥料(待肥)として、堆肥、鶏糞等を入れ遅くとも一か月位前に、やや深めに耕す。

排水を考慮、畝幅は 120 ～ 150cm 程度でカマボコ型にしたい

- 5) ポリマルチ利用の場合は植え付け前に設置する。 ※ A

② 植え付け

- 1) 苗選び しっかりした幹、葉間が間延びしていない、葉の色が濃い子葉、花房多数

- 2) 植付け 一条にするか、二条植えにするか。

植付けは浅植え、改良型・斜め植え

右→



株間は 50cm 以上取りたい、収穫しやすいように花房の方向を揃える。

③ 初期管理

- 1) 苗の保護 仮支柱で苗を支える、通常は「あんどん」 霜の心配があるときは、キャップ、またはトンネル設置がよい。定植時病虫害対策としてオルトラン粒剤利用もある
- 2) 注意 水のやり過ぎ注意
トンネルの管理・・・特に35℃以上にならぬよう裾上げを細かく行う。



※ A トンネルとマルチ

④ 中期

- 1) 「あんどん」・「トンネル」の撤去
- 2) 支柱の設置、合掌づくりか垂直格子づくり
- 3) 主幹の一本仕立てか、二本から四本仕立ても出来る ※ B
- 4) 脇芽欠き
- 5) 受粉・自家受粉
- 6) 追肥 3段目の結球で施す → 待ち肥型は無追肥 ※ C
- 7) 結球の調整・・・一段目の結球は少なめに

⑤ 後期

- 1) 中耕は実施しない・・・根を痛めやすい
- 2) 芯止・・・6段目の花 上二葉を残す
「連続摘心」という改良型もある
- 3) 梅雨期には雨と日照の繰り返しから、穴あき、尻割れが出やすい
- 4) 収穫期前に、防鳥対策
- 5) ポリマルチの場合は高温障害が出やすい・・・ 草マルチ等の対策

⑥ 代表的な病気

- 1) 「尻腐れ病」 右写真の様な症状 →
原因 土壌の過乾燥
地温の上がり過ぎ
チッソの過多、Caの不足

対策 畝作りの時石灰分は施している。(PH6.5)
上記の一つ一つチェックして原因を突き止める。
カルシウム不足の時、カルハード液剤の葉面散布。



2) 「疫病」 症状… 葉の先端から枯れ始める、全体がしおれる、実に穴が開き腐る

対応… 早期の場合 殺菌剤で防除 全体的になったら撤去

3) 「青枯れ病」

症状… 株全体が生気を失う、日中しおれ、朝夕元気に見えるが、それも不可能になり根、茎が侵され緑のまま死す、全体枯れ

対応… 撤去

正常な葉： 若い葉は少しちぢれ、横へよく張る。
上部の葉より下の葉の色は濃い。最下葉は枯れていく



「一本立ち」の場合 …… ※B

脇芽はすべて摘み取る。

三段目の結球が見られたら追肥を施す。

肥料は株から離れた所に少量。

マルチがあるときはマルチの外側に、通常は六段～七段までの収穫

「待ち肥」型を実施する場合 …… ※C

考え方… 十分な根の伸長を図り、耐病性と長期収穫を目指す。

また「待ち肥」こそ正しい施肥方法という考えもある。

ア) 耕起時に PH 調整は実施するが、必要な肥料を畝全体に施さない、「待ち肥」を有効にするには、畝幅 3m で畝中央に溝を作り施肥。



マルチ右溝下に「待ち肥用溝」

イ) 植え付けは、二条になる、また斜め植えが良い。株間 0.8～1m。
マルチは畝の両肩から中央へ、中央は開放し藁敷きにする。
高温になる場合はマルチ上に草、藁などで覆う。

ウ) 主幹一本立ちの場合は、花 14～15 段くらいまで可能になる。背丈が高い場合は折り返し、試みに二本立ての場合は 6～7 段×2、下葉は切り取り、またさらに脇芽を育て三～四本立ても可能、この場合追肥の定期施しをする。

トウモロコシ

取りたての甘さと喜びを味わって夏がやってくる



特徴 収穫後一時間でうまさは半減する… やっぱり自家産でなければ！
寒さに弱く(生育適温 22～30℃)、また高温(35℃)過ぎると受粉しにくくなる。
畑の清掃人(スカベンジャー)である。… 肥料食い

栽培

	3月	4月	5月	6月	7月
普通		4/26 播	5/9 植 20 追	6/5 追肥 網	7/16 収穫
少早期		4/4 播 4/25 植	5/8 追肥土寄せ 月末 追肥	24 網	7/6 収穫
早期栽培	3/13 播	4/6 植 4/30 追土	5/17 2 回目追肥	6/10 網 6/21 収穫	

実験的に播種を早めた結果を記録した。

またその年の気温等で作業日程は変わる。

播種から収穫までの日数は上から 81日 92日 100日。

低温での育苗は日数が掛る。

早期栽培の利点は病虫害が少ない、早く珍しいうちに食べることが出来る。

育苗 四月下旬の場合は、直播でよい。ただし鳥に種を横取りされやすいので注意。

早期の場合、8cm ポットかセル、トンネル等保温が必要。

四月初めの植え付けの場合は、畝にマルチ、トンネルが四月一杯まで必要。



育苗中 (家屋内)

畝作り 起耕時に堆肥を漉き込む。

畝幅 90 ～ 100cm 中央に深さ 10cm 程度の溝を作り化成を施し覆土。

植付 本葉 3 ～ 5 枚で植え付け(他品種混植しないこと)
マルチ利用の場合は、あらかじめ張り終え、マルチ
切りで株間は 30～35cm 二条植えにする。
条間は 40～60cm 程度の植え穴を開ける。



植付

追肥等 草丈 30～40cm になったら、除草、追肥、土寄せを行う。
二回目の追肥は、雄花の穂が見え始めた時に、即効性の化成を施す。

管理 脇芽を切り取るか、残すかは栽培者によって異なる。
茎にズイムシが入る(葉の付け根、雄花の軸などから
入りやすい) 観察して予防。



植え付け 1 ヶ月後

脇芽 → 実 雌花は普通上から二本にする、取ったヤングコーンはサラダ
に利用できる。

雌穂が伸びて糸状の花糸を苞外に出す、雄花は急に成長しススキの穂のよう
に開き花粉を落下させる。花糸がこれを受け取り受粉結実
し肥大化する。

この頃、実にもズイムシが入るので観察予防。

肥大期になると、カラスがやってくるので目の細かい
防鳥網を張る。



カラスの被害



防鳥網の取り付け

収穫 白い花糸が茶色になり、栽培日数も考慮して、実の先端部分をむき、実が黄色に色づき始めたら収穫。

大体似たような成熟なので4~5日程度で収穫したい。遅れると実が硬くなりうま味がなくなる。

実は新鮮な内に「茹で」で食べる

- ① 水から
- ② ラップ・電子レンジ

保存 皮を付けたままヒゲを上にして立てて冷蔵。

茹でた後の場合・ラップを巻き冷凍できる。



上の写真は、中央は脇芽の実、他は主幹の実
糖度は16~18%程度

ピーマン

目方は軽いが中身は濃い 水と肥料は欠かせない

性質 ビタミンAやCの含有量は抜群
 カラーピーマンの彩で「嫌い」を克服できる
 栽培時、意外に水が欲しい植物
 収穫期は長い



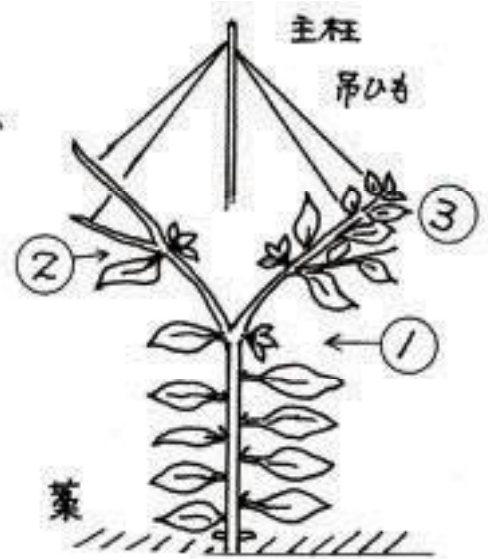
栽培 株数はあまり多く必要としないので購入苗から始めたい。

	4月.	5月	6月	7月～10月
普通	中旬植え		中旬以降収穫・10月まで	

畝作り 日当たり、排水の良い場所。畝幅は80cm以上にしたい。
 栽培収穫期間が長いので、元肥としての堆肥は多めにする。苦土石灰で土壌を調整、また根を張りやすくするため深耕しておく。
 マルチをすることで地温の上昇、水分の確保ができる。

植付 苗は四月中旬から五月の初め頃、一番花の蕾が見える程に成長したものを選びたい。
 畝中央に一条植え。浅植え。植えたあと少し土を盛り上げるように寄せる。
 株間は45cm～50cm
 支柱を立て、株もとが揺らがないよう軽く苗を支柱に縛る。

管理 ピーマンは8～9節目に一番花を付ける 図①
 気温16度以下ではこの花は変形石化しやすいので取り除く。一番花の脇芽は良く伸びる、この中から2から3本伸ばし主枝とする。
 主枝にそれぞれ2番花→実→収穫



図②

2番花の脇芽を伸ばし着花枝を多くする

図③

しばらく成長すると脇芽が増えてくる。
 脇芽3葉の所で摘心するとここに実が着く。
 一番花下の脇芽は不要。。



六月中旬のピーマン

貧弱で着果しない側枝は早めに間引き日当たりを良くする。
 幹部分の葉を取り除き風通しを良くする。
 水分保持の為写真のように藁(わら)を敷く。藁は飛ばぬよう紐張りをする。

注意 脇芽の取り過ぎは乾燥を早め日焼け果が出る

水管理 やや多めの水分は必要である (過不足は根が発達しないため)

- ・水不足の時・・・茎は太く短い、葉は小さくなり、葉柄の中央で曲がり下に向く。
- ・水過剰の時・・・茎は細く葉は小さくて細身、下端は下向き黄化する。
- ・適正の時・・・葉は厚くしっかりし、上向きに展開する。

収穫 果重は30g程度を目安にする。

(写真左、右は70gある)

あまり大きくすると茎葉の負担が大きくなり成長が妨げられる。また一本の主枝に多く成らすと枝が折れるのでそのため主枝は支柱から吊るす方法で保護する。

(前ページ図)



追肥 二番花のころ1回目の追肥を施す(887を1㎡あたり30g程度)

2回目は三週間程度明けて施肥、以降その程度の間隔と量で行う

カラーピーマン・パプリカ

最初は緑、途中は不鮮明な色になるが待つこと。

完熟すると発色する。

開花後50~60日で着色完熟する。

果は早めに摘果し負担を軽くする

ピーマン : フランス語の唐辛子のこと

パプリカ : ハンガリー語でピーマンのこと



菊メロン

復活した古代のメロン。思いがけない甘さのお手軽サイズ

性質 奈良時代から栽培され、メロンの香りと・マクワウリの風味がある。
外観からは想像できない食感と甘みがある、手ごろな大きさ
あまり手を掛けなくてよく育ち、実も良く付ける。

栽培

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
標 準	4.25	植付下旬		収	穫
改 ①	4.10			収穫	

畝作り 2m ～ 2.5m の幅を取る、緩やかな
かまぼこ型が理想。
堆肥を漉き込む(油粕、化成は追肥)
全面マルチ式が管理上良い。



育苗

苗作り 7 ～ 8cm のポットに培土を入れ
2～3 粒ずつ蒔く。
本葉が出たら一本にする、発芽率は高い
四月から五月初めの播種は保温の事。



キャップをはずした直後

植付 本葉 3 ～ 5 枚で植え付け、10cm 程度の盛土
(くらつき) が良い。 株間は 1m 以上。
四月から五月上旬までならキャップまたは
トンネルによる保温が必要。

管理 幼苗は割合茎が折れやすいので注意。
親つるは 4 ～ 5 節で芯止め、子づるは
3～4 本に整枝する。混み合うと倒れやすい。
自家受粉で最初の実は株近くに着く。可能な
限りわら敷きなど下敷きで土から離す。
病気は少ないが「ウリバエ」は好んで集ま
り葉を食い、土に産卵する。要防虫・殺虫。



発育

収穫

実は熟すると自然に蔓から離れる。
表面の濃い緑色がやや薄くなるので、
そんな実に触ってみるとポロリと離れる。
冷蔵保存



成果



結果状況

改良 ② 播種時期を遅らせる効果

5/17 → 6/7 → 収穫八月中旬ころ
播種 植付

- 1) スイカやモモの収穫と競合しない効果がある。
- 2) ウリバエの発生・被害は極端に多くなるので防虫ネットを張る。
(防虫ネットは、植付時～開花するまでの間)

オクラ

クレオパトラが好んだ美容に優しい野菜
再生を図って長期収穫



六角オクラ

特徴 原産地はアフリカ北東部、熱帯から温帯で栽培されている。
明治初期アメリカから「アメリカネリ」と名付けられていた。ヌルヌルとした粘り気は、ペクチン、アラビノガラクタンという良質の水溶性食物繊維でコレステロールを減らす効果を持っている。他にビタミンB・C、ミネラル、カルシウム、カリウム等が含まれ夏ばて防止、便秘、下痢に効く。整腸作用や大腸癌を予防する効果があると期待される。

栽培時期と品種

	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1
苗移植	播種	植付			← 収	穫 →				
直蒔き			← 播種 →		← 収	穫 →				

品種：切り口が五角形種：アーリーファイブ、グリーンスター、
切り口が丸形種：エメラルド

五角形種・丸形種

育苗・栽培管理

播種は温かくなって直蒔きをする。育苗はポットに5～6粒蒔きハウス又は屋内でビニール被覆をして育てる。
播種後覆土を厚くすると発芽が悪いので浅くする。(4~5mm)
早期播種の場合は乾燥防止のために新聞紙等で被覆する。



間引き：播種後20日ぐらいで発芽し本葉1枚展開する時に3～4本に間引きをする。

丸形種は大きくなるので、斜め植えにし、脇芽の発芽を促進する。3～4本にする。

畝作り 植付は畝幅は 1.8m の 2 条で条間 50～60cm か、畝幅 80～90cm の 1 条蒔き
(植え)株間は双方とも 20cm にする。… 倒伏防止

施肥元肥：有機質等の肥料と石灰質肥料を施用する。追肥は 2 週間に 1 回程度とする。

施肥例 (1 m²当たり)

種類	元肥	追肥 1	追肥 2
苦土石灰	1 5 0 g		
堆 肥	2 0 0 0 g		
菜種油粕	1 0 0 g	5 0 g	5 0 g
高度化成肥料 (14-10-13)	1 0 0 g	1 0 0 g	5 0 g

摘葉・わき芽欠き： 株元にわき芽が出たら樹勢が弱るので欠き取りをする。
収穫をした果実の下葉は全て欠き取り果実の充実を図る。

収穫：五角形種は長さ 10cm 程度、丸形種 15～20cm が収穫適期。これ以上
大きくすると木質化して、固くなる。



果実を収穫した下葉を切り落とす



オクラの苗

メロン

高級野菜を自分の手で



特徴 北アフリカから中近東が原産と考えられている。
 雨の少ない地域を中心として古代エジプトで紀元前から栽培されていた。ネットメロンは16世紀イギリスで改良され、日本には明治中期に導入され末期から本格的な栽培が始まった。

栽培時期と品種

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地					植付			収穫				
					植付			収穫				

品種：ヨーロッパ系 ネットメロン・カンタロープ(ハウス栽培)、
 小アジア系 ウインターメロン
 雑種メロン(東アジア系)プリンスメロン、ニューメロン、黄マクワウリ、菊メロン

栽培管理

砂壤土で排水が良いところがよい。連作をすると蔓割れ病や線虫による障害が出やすいので少なくとも3年は栽培をしないようにする。

生育適期は生育適温が25～30℃と高温性のため、出来るだけ保温(プラスチックキャップ等)や加湿に努める。酸性には弱いので必ず石灰質肥料を施用し、良く耕耘してから栽培に取りかかる。

畝作り 畝はポリマルチを早めに架けて保温に努める。畝幅は2m、株間0.75～1mに定植。

・施肥元肥：有機質等の肥料と石灰質肥料を施用する。

施肥例 (1㎡当たり)

種類	元肥	追肥 1	追肥 2
苦土石灰	1 5 0 g		
堆肥	2 0 0 0 g		
菜種油粕	1 0 0 g	5 0 g	5 0 g
高度化成肥料 (14-10-13)	1 0 0 g	1 0 0 g	5 0 g

摘心と誘引

親蔓は本葉5～6枚で摘心し、子蔓の発生を促す。子蔓は本葉10～12枚で摘心し、子蔓の1～4枚までの孫蔓は摘み取り、5～12枚から伸びた孫蔓にだけ着果させる。

誘引は子蔓を2～4方に伸ばす。果実が卵大になった頃、1回目の追肥を畝の肩の所にする。その後2～3週間後に追肥をする。その後敷きわらをする。

1株8個まで。(孫蔓に1個)
(着果が多すぎると小玉、甘み薄い)



メロンの摘心と誘引の図
整枝

収穫：開花から40～50日ほどたった頃が収穫適期となる。果梗の毛が無くなり、わずかに芳香が感じられたら完熟。収穫の10日ほど前から水やりを控えると果実の糖度が増し裂果も防げる。

ショウガ

保水栽培で楽々多収
一工夫で保存良好

三世紀ころ熱帯アジアから日本にもたらされた。
食欲の増進、体を温め免疫力を高め、脂肪の分解を促進する。
抗酸化作用、漢方的には血行促進、咳止めなどあらゆる病気を防ぐという。

栽培 4月下旬暖かい日が続くようになったら種イモを植え付ける。

イモの間隔は15cm程度 待ち肥料の場合は浅目に置くこと。(根は比較的短い)

乾燥に弱い。茎が伸びてから、よく成長する夏までの間に二回は追肥と土寄せを実施し、梅雨明けには敷き藁など乾燥防止策を行い、水やりを忘れないこと。

収穫 九月になるとイモは肥大しているので少しずつ掘り、利用する。
全ては、霜の降りる前には収穫する。

保存 幹や葉を除け、水洗い根を切り取る。
蓋つきポリバケツを丁寧に洗淨天日干しをして保存する根ショウガを入れる。
ショウガはブロックのまま、蓋が自然に閉まる程度。



植付



育成



貯蔵中

霧吹きで全体のショウガが湿る程度に水分を吹く。ポリバケツの保存は最も低温になる二月でも12℃を下らない場所に保管する。一か月に一度程度蓋を開け、水分の欠如、カビの有無、傷みの有無のチェックを行う。かびは切り取り、傷み(腐れ)はその部分の二倍程度を切り取りを行う。(低温の可能性・場所変え)地下に保存する場合もある。またサトイモと共に保存する場合もある。
要点は、水分保持、低温にならないこと。

サラダゴボウ

深い土は不必要 短い分だけ作りやすい。

その風味と食感は郷愁をそそる。近年、食物繊維が豊富なことからヘルシー野菜とかダイエット食品として脚光を浴びる。長さ 30~40cm で柔らかく生食も可能。

栽培期間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
種蒔			○	→	→	→	→	→	←○			
収穫	←△					△	→	→	→	→	→	→

畝作り

水はけの良い畑、連作障害を避けるため 2~3 年は開ける。栽培期間が長くなる場合は畑の中心は避けたい。土壌は PH6.5 ~7.5(7.0 が最適)のため 2 月頃に苦土石灰で調整普通畝の両側を掻き揚げて台形型にする、20cm の間を取って並列に V 字型のまき溝を作る。

種まき 最適は 4 月

まき溝にあらかじめ水をやり、種を 2cm 程度の間隔で蒔く。
覆土は薄くし、切りわらか VS 堆肥を振りかける。
その上から水をたっぷり注ぐ。

発芽するまで乾かさないようにする。
発芽したら土が乾けば十分な水やりをする。



発芽直後

間引き

本葉 3~4 枚になったら 5cm 程度に間引き、軽く土寄せを行う。

追肥 本葉 5~6 枚のころ株間に、豚糞あるいは 887 を施す。あとは 3 か月程度に一度施す。

収穫 3 か月過ぎて太さが 1cm 程度になれば収穫できる。

12 月になれば葉が枯れて最も収穫がしやすい。そのまま置くと翌年の春発芽する。サラダゴボウは 2~3 年経っても十分食べられる。